

2013年2月19日

## アジア主要都市を高信頼・低遅延でつなぐ光海底ケーブル 「Asia Submarine-cable Express」の香港ルート運用開始について

NTTコミュニケーションズ(略称:NTT Com)は、Telekom Malaysia(本社:マレーシア)、PLDT(本社:フィリピン)、StarHub(本社:シンガポール)と共同で建設を進めてきた、アジア主要都市を結ぶ高信頼・低遅延\*1の大容量光海底ケーブル「Asia Submarine-cable Express」(略称:ASE)について、香港向けのルートが完成し、2013年2月8日より運用開始しました。これにより、ASEは、2012年8月20日に運用開始した日本・マレーシア・フィリピン・シンガポールを結ぶルートを含め、当初予定していた全てのルートが開通したこととなります。

NTT Comは、ASEの高信頼性や低遅延性を活かし、企業向けのArcstarグローバル専用サービス、Arcstar Universal One、グローバルIPネットワークサービスなどを拡充していきます。

### 1. 香港ルートの特長

香港は、シンガポールと並び、アジア地域の経済活動の中心である国際金融都市であり、高スペックな通信インフラが求められます。

ASEの香港ルートは、NTT Comが香港 將軍澳(チュンクワンオウ)に建設した「香港TKOデータセンター」(2013年春に提供開始予定)に直接陸揚げされており、そのままデータセンターのサーバールームと直結しています。これにより、アジア主要都市と香港TKOデータセンターを結ぶネットワークサービスを、従来よりも低遅延かつ低コストで提供できるようになります。また、NTT Comが自ら保有する海底ケーブルとデータセンターのもと、ネットワークサービスやクラウドサービスなどを一体的に提供できるため、お客さまはより信頼性の高いグローバルICT基盤の構築が可能となります。金融商品の高頻度取引\*2などマイクロ秒\*3を争う金融機関のお客さまにも最適です。

### 2. 今後の展開

NTT Comでは、今後、主に東南アジア(特にメコンエリア)に、ASEの陸揚げ国を拡大していく予定です。また、グローバルデータセンターも一層拡充し、高品質なネットワークサービスとデータセンター、クラウドサービスをエンド・エンドかつワンストップで提供していきます。

## (参考) ASE の概要

ASE は、地震や台風といった自然災害の多発地域である台湾南沖バシー海峡付近を回避するとともに、日本から香港、シンガポールまでのケーブル敷設距離を最短ルートで設計することで、高い信頼性と低遅延を実現しています。

- ・総延長: 約 7,800km
- ・設計容量: 15Tbps 以上
- ・陸揚げ地: 日本、フィリピン、シンガポール、マレーシア、香港
- ・参加通信事業者: NTT Com、Telekom Malaysia、PLDT、StarHub
- ・ケーブルルート: 別紙参照

---

\*1: IP 網などで、パケットを送出して相手先に届くまでの時間を遅延値といい、低遅延とはより早くパケットが相手側に届くこと

\*2: プログラムにより自動的に株などの金融商品を取引する「アルゴリズム取引」のうち、小口注文を高頻度で行う取引。HFT (High Frequency Trading) とも呼ばれる。

\*3: 100 万分の 1 秒

# 別紙 ケーブルルート（イメージ）図

## Asia Submarine-cable Express（略称：ASE）



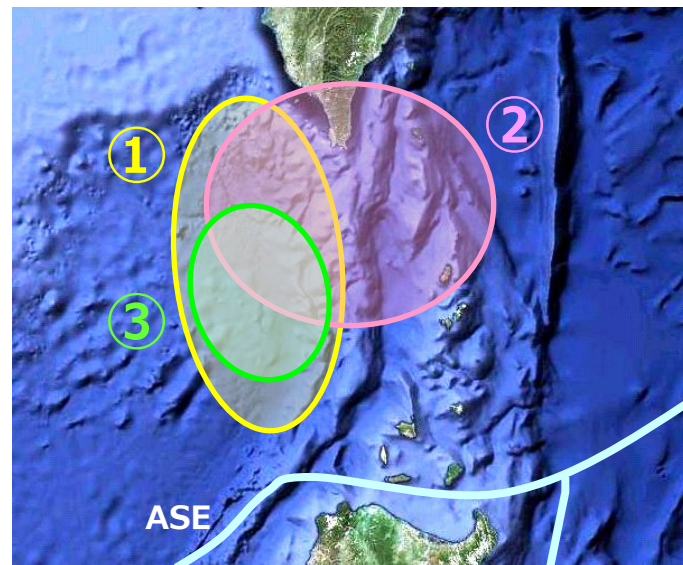
(凡例)

— 2012年08月20日 運用開始

— 2013年02月08日 運用開始

● ケーブル故障頻発エリア

### ケーブル故障頻発エリア （台湾南沖バシー海峡付近）について：



このエリアは、国際海底ケーブルの密集地域ですが、地震や台風など自然災害の影響も受けやすく、ここ数年、故障が頻発しています。

このエリアが被災すると、香港・シンガポールをはじめ、東南アジア各国、ひいては日本・米国の通信に多大な影響を及ぼします。

**ASE**はこの故障頻発エリアを回避するようなルート設計となっています。

過去の故障事例：

- ①2006年12月：地震による故障
- ②2009年8月：台風による故障
- ③2010年3月：地震による故障